

令和6年度 一宮小学校 総括評価表Ⅱ（豊かな心の育成）

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見	今後の改善方策		
進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいで話したりする習慣が身に付いていない児童がいる。	<p><u>Ⅱ）豊かな心の育成</u></p> <p>① 体験活動や人々との交流を織り込んだ、多様な教育活動を展開する。</p> <p>② 組織的な生徒指導体制の充実を図り、いじめ・不登校等の問題への取り組みを強化する。</p> <p>③ あいさつの習慣や、正しい言葉遣いの定着と、道徳教育の充実を図る。</p> <p>④ ボランティア活動や異学年活動などを通して、互いを支え、励まし合い、互いを大切に作る仲間づくりを進める特別活動の充実。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者アンケートによる「体験や交流学習の取り入れ」の達成率80%以上 ①-2 体験学習や交流活動を毎学期実施する。</p> <p>②-1 保護者アンケートによる「相談体制」の達成率80%以上 ②-2 児童・保護者アンケートによる「いじめ・不登校対応」の達成率80%以上</p> <p>③ 児童・保護者アンケートによる「あいさつ、正しい言葉づかい」の達成率80%以上</p> <p>④ 異学年活動を年間3回以上、わくわくタイム月1回以上、ボランティア活動を毎週行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 体験学習や交流学習の取り入れの達成率89%で指標を上回った。 ①-2 各学年ともに発達段階に応じて、体験や交流学習を行うことができた。</p> <p>②-1 相談体制については、達成率86%で指標を達成することができた。 ②-2 いじめ・不登校対応の達成率は、児童97%、保護者90%と、児童・保護者ともに指標を上回った。</p> <p>③-1 児童は86%、保護者は82%となり、児童も保護者も指標を上回った。</p> <p>④ わくわくタイムは定期的の実施できていた。全校ボランティアは天候によってできないことがあったが、それに代わる異学年の活動を実施することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>重点目標①については、発達段階に応じた体験活動や交流学習を実施することができた。今後も、体験や交流学習を継続していきたい。</p> <p>重点目標②については、指標を上回ったが、今後とも児童・保護者の信頼が得られるよう、より深く児童一人ひとりを見つめ、指導にあたるとともに、全校的な共通理解や指導体制の構築をより強化できるよう努めたい。</p> <p>重点目標③については、社会的自立を見通し、あいさつや場に応じた言葉づかいの指導に全教職員で力を入れていきたい。</p> <p>重点目標④については、今後も継続して活動し、思いやりの心を育ていきたい。</p>	<p>体験学習や交流学習に対する工夫が感じられる。先生方の児童理解は、すばらしいものがあると感じる。子どもの落ち着いた様子や笑顔を拝見し、先生方の取り組みができていたと感じた。</p> <p>① 体験学習や交流学習の取り組みはすばらしいものがある。今後とも工夫の凝らした体験学習・交流学習を期待する。</p> <p>② スマートフォンやタブレットの安全で有効な使用について、専門家を招聘しての講演会等の開催を通じて、保護者や地域の方への啓発を続けてほしい。</p> <p>③ あいさつは自然によくできていると感じる。引き続き、発達年齢に合わせた指導をこれからもお願いしたい。</p> <p>④ 道徳心や思いやりの気持ちの育成に、今後も力を入れて取り組んでほしい。</p> <p>⑤ 縦割り班活動で、上学年が下学年の世話をしたり、下学年が上学年の行動を手本にしたりするなど、心の育成につながっている。また、責任をもって仕事をすることで、自信ももてるようになっている。今後も取り組んでほしい。</p>	<p>① 体験学習や異学年交流学習については、十分にできていた。学年の発達段階に応じた体験学習や交流学習を今後も進めていきたい。</p> <p>② 児童理解をさらに深め、共有すると共に、相談体制を充実させていきたい。</p> <p>③ 気持ちのよいあいさつや言葉づかいができたときには賞賛するなど、教職員がポジティブな行動支援をこころがけていきたい。</p> <p>④ おおむね充実した活動ができていて、低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じたためあてをもたせながら、児童に思いやりの心を育てていきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 地域や歴史に関する体験活動や、縦割り班活動、地域の保育所、近隣小、中学校との交流の充実を図る。 ①-2 教科書や読み物資料を有効に活用し、道徳教育の充実をめぐる。</p> <p>②-1 児童一人ひとりの実態把握に努め、全校的な共通理解や指導体制の構築を進める。 ②-2 保護者への連絡を密にし、教育相談や教育調査等を重視した体制づくりを進める。</p> <p>③-1 あいさつを教職員が進んで行い、気持ちのよいあいさつや返事ができる学校づくりを進める。 ③-2 学校生活全体を通して、丁寧な言葉づかいを指導する。 ③-3 家庭や地域と連携し、あいさつや正しい言葉づかいをしようとする意欲を高める。</p> <p>④ 異学年交流やボランティア活動等を年3回以上実施し、よりよい人間関係を築き思いやりの心を育む。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 自然や地域・歴史に関する体験活動を進めてきた。オリエンテーリングや町探検等の活動や、保育所や近隣小学校との交流を図った。 ①-2 教科書だけでなく読み物資料や新聞を活用し、児童の実態に応じて、ロールプレイや教員が作成した資料等を取り入れ道徳教育の充実をめぐる。</p> <p>② 学校生活アンケートの結果を分析し、児童の人間関係や生徒指導上の諸問題について全校的に共通理解を図り、全教職員で指導にあたってきた。また、定期的に生徒指導委員会・校内委員会を開催し、情報交換に努めた。直接または電話や連絡帳を通して、保護者への連絡体制の構築に努めてきた。</p> <p>③-1 教職員が率先してあいさつや丁寧な言葉づかいを行い、継続してあいさつの大切さや場に応じた言葉づかいを指導してきた。 ③-2 教室に話し方のモデルを掲示し、丁寧な言葉づかいができるように努めてきた。 ③-3 地域の防災訓練や子どもカフェなどの際には、進んであいさつができる児童を賞賛し、意欲を高めた。</p> <p>④ 校内での活動を効果的に取り入れて、わくわくタイム、縦割り班の活動を通して、思いやりの心を育ててきた。</p>			

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった